



江田島荘から子どもたちへ「愛」を届けるアイランドプロジェクト

ISLAND



【お預かりしたご寄附の実績】
毎年のご協力感謝いたします。

2022 年
71 件 522,950 円

2023 年
84 件 530,000 円

2024 年
92 件 720,000 円



「子どもたちの願いを叶える活動にする」
この活動で目指すべきこととして、現在辿り着いた答えです。

それは決して大きな言葉ではありません。
ただ、クリスマスの夜に、子どもたちが胸の中で静かに願う——「これが欲しい」「サンタさんをお願いしたい」「こんなことができたなら」
そんな素朴でまっすぐな想いを、確かに叶えてあげたい。それだけのことです。

けれど、その“たったそれだけのこと”を実現することが、どれほど多くの大人の心を動かし、
どれほどの時間と手を必要とするのかを、私と周りで支えてくれているスタッフはこの三年間で目の当たりにしました。

子どもたちは、「何かを願う」ことを意識したとき、ほんの少し社会を信じはじめます。
そして、その願いが叶った瞬間、彼らの中で「世の中は優しい場所だ」という
最初の確信が生まれるんだと活動を通して実感しました。
それは、静かに灯る“こころの灯火”になるのではないか、そうあって欲しいと願います。

この活動では、まさにその灯を一つずつ灯していくことを心掛けてきました。
贈り物は、ただの“モノ”ではなく、「君の願いは、誰かの手によって叶えられる」という経験そのものです。
その経験こそが、子どもたちのところに、希望の根を張らせると信じています。
そして、それが大人になって何かに挑戦することへと繋がるならばこの上ない喜びです。

家庭の中で、親から子へ自然に注がれる愛情の代わりに、私たちは“社会の大人”として、その喜びを共に分かち合いたい。
子どもたちが、他の子どもたちと同じように、“ねだる”ことを恥じず、“願う”ことを恐れず、“叶う”ことを信じられるように。
それがこの活動の原点であり、私たちの目指すべきものだと思います。

願いを叶えるという行為は、同時に未来を信じる行為です。
「いつか自分も、誰かの願いを叶えられる人になりたい」そう思える心を、子どもたちが自らの中に育ててくれること。

小さなプレゼントが、やがて誰かの原体験となり、その原体験が、また次の誰かの願いを叶えるきっかけになる。
そうして“想いの連鎖”が受け継がれていくことを、私は信じています。

江田島という小さな島から生まれたこの活動が、子どもたちの願いを叶え、大人たちのこころを温め、
やがて日本のどこかでまた新しい灯をともししていく。それが、私たちが目指す「アイランドプロジェクト」の姿です。
そして、今年もクリスマスの夜に、小さな奇跡を届けてまいります。

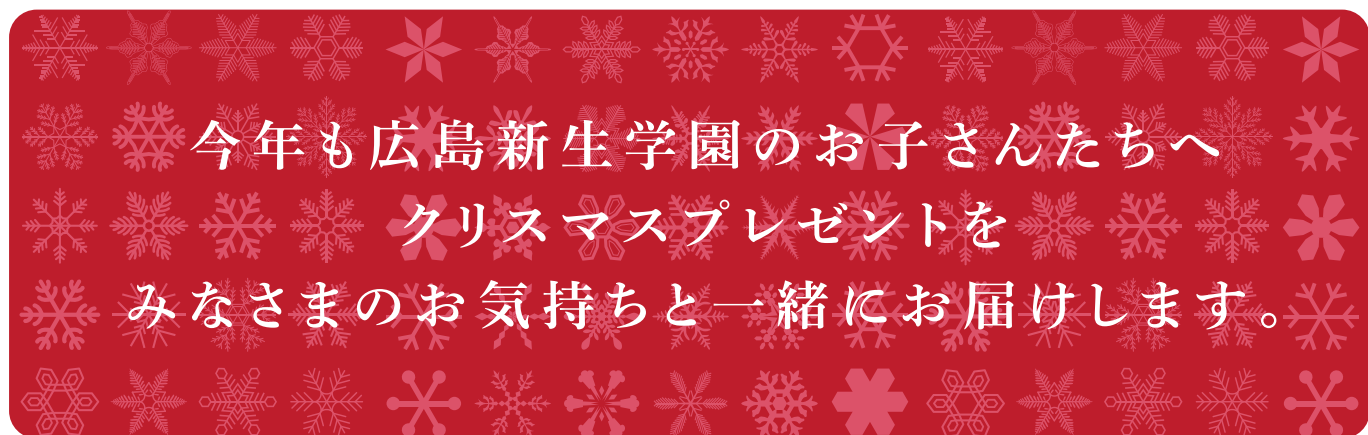
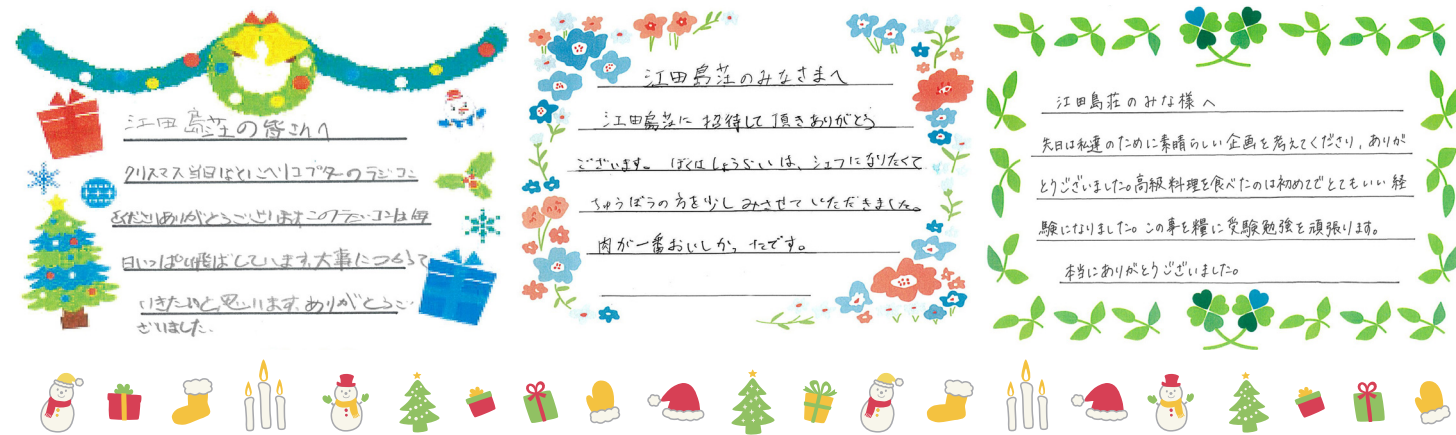
4年目を迎えるにあたり、辿り着いたのがこの答えでした。
そして、それを果たしていくには単年の活動（皆さまからの篤志を秋口から集め、
クリスマスにプレゼントやイベントとして使い切る）では収まりきれなくなってきました。

今年、お預かりした分からは、非営利な形の何らかの組織的な動き
（NPO法人化など）へと発展させるべく、専門家に相談を始めました。
来年のこのパンフレットでは、更なる進化をご報告できるよう、ISLAND PROJECTの想いを継続していけるよう、
今年も皆さまからの温かいお気持ちをお待ちしております。



こころと身体が元気になる温泉宿 江田島荘 〒737-2301 広島県江田島市能美町中町 4718 tel. 0823-27-7755





活動も4年目となり、既にご理解いただいている方もたくさんいらっしゃると思いますが、新しく気に留めていただいた方向けにプロジェクトの趣旨を描かせていただきます。

大人になったら仕事以外でも 社会の役に立ちたい。

江田島荘は、「ところと身体を元気にする温泉宿」として2021年に開業しました。有難いことに30歳になってもない私がこの宿の主（あるじ）のお役目を賜うことになりました。大人になったら仕事以外でも社会の役に立ちたい。と思うていたのですが、総支配人になることが決まった時、いよいよ大人になる日が来たという気がしました。しかし、いざとなるとなかなか自分なりに筋が通った社会活動に辿り着くことができずにいました。自分は、寄附がしたいのだろうか、売名行為に思われるのではないだろうか、どういう未来図を描いたら永く継続していける活動になるだろうか、明快な答えが出ないまま時間だけが流れていきました。

新生学園との出会い そして上栗園長との出会い

立ち止まったままではいけないと思っていたところ、ニュース番組で

です。」とご説明されました。奉仕団体の方々が継続してこられたことへの尊敬の念を抱きながらもこの事実が私の原体験と重なり、その場で「私にも何かお手伝いさせてください。」と伝え、創意工夫しながらこの活動がスタートしました。

願ったことが叶うという 小さな原体験へ

一歩踏み出すにあたり、寄附金を渡すだけではなく、子どもたちが遠慮することなく、無邪気に何かを望み、それが実現するという機会を創ること、にチャレンジしてみようと思っていました。大切なのは、子どもたちから叶えてみたいことや欲しいものを引き出し、それを一つずつ叶えることだと思いました。そうすることで、単にクリスマスにプレゼントが届くことに留まらず、子どもたちが抱く将来の夢や希望が叶うことの小さな原体験になると思ったからです。勿論、60名以上の子どもの願いを叶えるには私の仲間だけでは到底賄うことができませんので、賛同してくださる方を募ることにしました。そして、賛同してくださる方の篤志をプレゼントに替えてお渡しするだけだといとこ取りになってしまふので、その方々には、私の仲間がこしらえたものを返礼品にしようと考え、手作りのお菓子を用意したりしました。2年目からは、賛同してくださ

広島新生学園の特集を目にしました。引き寄せられるように飛んで行き、上栗園長にお話を伺ったところ、クリスマスを前にサンタさんにプレゼントをお願いする機会がない子どもたちがいることを知りました。

ふと、三人兄弟の末っ子だった私に与えられる「おもちゃ」や「洋服」の思い出が頭によぎりました。いつも兄たちのお下がりばかりで、「私のために準備されたギフト」というものを貰った記憶がありませんでした。しかし、小学2年生を迎えたクリスマス朝、目を覚ますと枕元に当時一番欲しかった「手のひらピカチュウ」が置いてあり、心から喜んだことを今でも鮮明に覚えてます。それが私の原体験となり、将来、自分の子どもに巡り合うことができれば、「素直な心で願ったことが叶う喜び」を味あわせてあげたいと想っていました。

園長のお父様が開設された児童養護施設で沢山の子どもたちと一緒に育ち、76歳の現在は、60人以上のお子さんたちの親父を務め、かくしやくとしていらつしやる姿に、微力ながら何かお手伝いしたいと思いました。

園長と話を重ねる中で児童養護施設の実態について教えていただき、これまで知らなかった事実が熱くなることもありました。クリスマスに話が及ぶと「地元の奉仕団体からいただけるお菓子がこの子どもたちにとってのクリスマスプレゼント

る方の中に「お返しは要らないからずっと続けてね。」と仰ってくださいる方も増えました。

いろいろな想いを込めて これからへ

そして、プレゼントのほかに一昨年からはエレクトーンの生演奏を、昨年は江田島荘に子どもたちをお招きして一流シェフによるランチを楽しんでもらいました。これからもその年々の子どもたちと私たちの成長に合った、いろいろな想いを込めて継続していくつもりです。是非、活動の趣旨をご理解いただき、多くの方からのご協力をお待ち申し上げます。（新生学園のカレンダーにこのプロジェクトのことが恒例行事として書き加えられたのを知り、今回からは、「お子さんたち」から「子どもたち」と親近感をもって呼ばせていただこうと思います。）



二〇二五年 霜月 吉日
江田島荘総支配人

原爆投下の2ヶ月半後に開設された児童養護施設で、広島県内に13施設ある児童養護施設のうち、2番目に歴史ある施設です。原爆孤児、戦災孤児、引揚孤児等の収容保護を目的として、広島市南区宇品長久陸軍曙部隊の兵舎の一部を借りることから歴史が始まります。昭和46年4月に現在の東広島市西条町に移転し開設から79年、引揚孤児300名、原爆孤児、戦災孤児及び一般養護児童2,200名、合計2,500名を養護し現在に至ります。今日も虐待を受けたり、何らかの理由で親と生活が出来ない2歳から18歳までの62人

広島新生学園

が一緒に暮らしています。「児童の人権を尊重・理解し児童の秘められた可能性を発見助長する」を養護方針として職員の方々には住み込みフレックスタイム制で子どもと生活しています。また、両翼80mのグラウンドでは毎日園内で子どもたちと職員で野球やバレーボールで汗を流したり、地元の連盟チームと試合をするなどスポーツによる集団指導により協調性、遵法性・責任感・忍耐力を高め、体力と礼節の増進を図っています。平日は学校に通い、園内では一つの大家族のように子どもたちと職員が過ごしています。



広島神輿行列



広島東照宮

被爆80年の今年、御祭神である徳川家康公薨去後に行われてきた伝統行事「通り御祭礼（とおりでさいれい）」に準じた「広島神輿行列」が広島東照宮で斎行されます。私どものプロジェクトにご賛同くださった徳川宗家第19代当主徳川家広さんと広島東照宮久保田宮司のご協力のもと、子どもたちが特等席でこの神輿行列を観覧できることになりました。

やさしい革様のご協力



Web Shop

熊などの害獣問題が広がりを見せている昨今ですが、私ども江田島荘でも江田島に於けるイノシシ問題の解決の一助となるべく、イノシシ革の活用を3年に亘り模索しております。その中で私どものプロジェクトにご賛同くださった（一社）やさしい革様が子どもたちへの贈り物にご協力いただけることになりました。